

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600609		
法人名	(有) ニフコ		
事業所名	グループホーム田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井603		
自己評価作成日	平成21年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年3月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172600609&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園風景に囲まれた伝統的な日本家屋という住み慣れた環境の中でそれぞれが出来ることを活かしのんびりと楽しく一日を過ごすことをサポートしていきます。家族が安心して生活を託され、利用者が、スタッフがそれぞれあまり気を張らずに自然体で生活をする場でありたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春の桜・夏の蛍・秋の紅葉の自然に囲まれたグループホームは、利用者と共にいつも楽しく暮らせるよう、利用者一人ひとりに合った過ごし方を見つけている。重度化に伴い居室で過ごすことが多くなる利用者には、話し掛けやCDをかけて、穏やかな暮らしの支援をしている。会話の内容や言葉掛けの方法で食欲が増したり、不安の解消が図れる事を見だし、利用者の思いの引出しやケアの達成感に喜びを感じている。管理者は、職員が楽しく働き、仕事のストレスをためない事を心がけ、意見や要望が言い易い環境を築いている。また、自分で考え、挑戦する職員の自主性を育てている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念はあるが現実の問題として入居者のADLの状況とずれがあると感じている。	利用者、職員が共に地域の中で楽しく暮らし、楽しく働くことを目標に理念を掲げている。申し送りや日々のケアで理念を振り返り共有しながら、地域の中で暮らす支援の実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所から農作物を頂いたり、散歩の時の季節の挨拶や畑作の助言、草刈りの手伝いなどで地域の人達と交流している	散歩時の挨拶、野菜の苗や種をもらい育て方を教えてもらうなど、敷地の畑を通して地域の人との交流がある。また、神社の掃除、草取り、溝掃除などに参加し、地域の一員としての役割も果たし、郵便配達や牛乳配達の人達の見守りもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人を優先的に雇用し地域の人達の認知症への理解を支援している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を暫く開催していない。早々に再会する予定	今年度は運営推進会議を開催することが無かった。代表者は、運営推進会議の必要性を理解し早急に開催する予定としている。	過去に行なった民生委員の勉強会などの経験を活かし再開されると共に、参加者からの意見や要望など、今後の運営に反映されることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の福祉担当者と日常的に接触している。入居者の状況、スタッフについて報告しながら事業を進めている	高齢福祉課とは、利用者の問題や制度上の質問、助成金の申請など相談し、意見を求めながら解決している。管理者は事業所が地域住民と行政との仲介の窓口としての役割を果たしたいとの思いを持っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日常的に話し合い身体拘束をしないケアに努めている	日中は玄関を開錠し、利用者は広い庭に自由に入出入りしている。又点滴時に安定の為、腕を押さえる時は、最低限の拘束として家族の了解を得ている。職員は拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について日常的に話し合い、虐待の防止に努めている		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護が必要とされる利用者の権利擁護を進めた。その過程を職員に説明した		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、できるだけ複数の家族に十分に説明し契約をしている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望をできるだけ話しやすい雰囲気づくりに努めている	利用者の要望は日々の暮らしの中から見出すようにし、家族からは電話やメール、請求書を届ける時に意見、相談事を直接聞くようにしている。要望などは職員と話し合い、出来る限り実現するように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はスタッフが意見や提案を言いやすいよう努めている。また提案を積極的に取り上げている	管理者は、職員が楽しく働けるよう心がけ、日常的に気づきや意見などを言いやすい環境を築いている。職員の現場の意見や提案を採り入れ運営に活かすと共に、職員の自主性を育てている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況や能力の向上を評価し、また働きやすい職場環境をつくるために努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会への参加を紹介し呼びかけている。講習会の参加費用を法人が一部負担する制度を設けている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西濃地域のグループホーム協議会に参加し意識とスキルの向上を目指し情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に家族から生活状況を聞き取りするなどして本人の安心できる環境作りに努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人が入居後に不安定になる配偶者などの家族の支援をしている。家族間の意見調整などに介入して家族全体をささえるよう努めている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>在宅から入居した時、急激な生活環境の変化に対応するため様々なサービス(逆デイ、系列デイの参加、etc)を行っている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者が有している生活力を尊重した共同生活をしたいと考えている(しかし、現実問題として出来にくい状況になっている)</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の考え方を尊重し、スタッフは家族と本人から少し離れた第三者として見守り、それぞれがよりよい関係を主体的に構築し直せるよう努めている</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の理解を得ながら、時々自宅に戻ったりすることを支援するよう努めている。</p>	<p>家族の送迎で、自宅に帰り近所の馴染みの人に会ったり、墓参りに行っている。また、姉妹の通うデイサービスに週3回面会に行くなど、職員と家族が協力して馴染みの関係が途切れないよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を注意深く観察し、お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り、支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された場合でも施設や家族を訪問し支援している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとってできるだけ居心地のよい場所でありたいと考えている	利用者のいつもと違うしぐさや表情を見逃さない様にしている。夕方になると混乱する利用者が、お経を読むと落ち着いた。経を読む為のそれぞれの役割が出来、楽しみの日課となった。職員は、思いの引き出しにやりがいを感じている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握につとめ、本人にとってできるだけ暮らしやすい場所でありたいと考えている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を観察し記録し、それをもとにスタッフ間で相談しながら生活能力の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者で話し合いながら介護計画を作成している	状況の変化に応じた計画は作成しているが、定期的な見直し、本人・家族の同意を得た計画となっていない。また、計画作成時に職員の意見を取り入れる取り組みがない。	利用者の課題やケアについてアセスメントや全職員で意見交換などして、本人、家族の希望や意見を取り入れた介護計画の作成と、同意を得ることが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を観察記録しスタッフ間で相談しながら日々の介護を見直しながら進めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、併設デイの利用、外出レク、緊急時の病院送迎など臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の日曜日へ訪問したり、お八幡さんの清掃など季節と人と人の繋がりを感じる地域の行事へするなど行っていた		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診を必要とする場合は、本人と家族を支援し適切な方法で適切な医療サービスを受けられるよう支援している。施設かかりつけ医とは常に接触し入居者の状況を連絡している	入居前からのかかりつけ医を受診する利用者には、家族が付き添い結果の報告も受けている。重度化する利用者には、協力医の週2回の往診と訪問看護で対応している。急変時は、管理者が付き添い適切な医療の受診を支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に併設デイの看護師のバックアップを受けながら利用者の日々の健康を管理している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	揖斐厚生病院への入院の際は、適時面会し医師看護師やMSWと面談している。最近では入院者が多く、必然的に病院者との接触が多くなっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾患が重篤となる、または見込まれる場合、様々なケースを想定して、必要な処置とホームの対応を具体的に説明している。	入居時に事業所の方針を説明している。重度化していく利用者や状況の変化に応じ本人や家族、主治医、職員と話し合いながら入院も踏まえて事業所の出来る限りのケアに取り組んでいる。ターミナルの経験から管理者と職員は方針の共有に努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は救急救命講習を修了している。日頃の色々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明指導しスタッフのスキルアップに努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に備え、避難方法について日常的に考え話し合うよう努めている	口頭での避難誘導説明をしているが、避難訓練を実施していない。管理者は、来年度にスプリンクラーの設置を予定し、耐震については設計士に相談しながら、自身での工事に着手している。	早急に消防署の協力を依頼し、利用者、地域住民に呼びかけ避難訓練を実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重した対応をするよう努めている	声掛けや支援がマンネリ化していないか自己評価を行ない、一人ひとりを尊重した対応を心掛けている。管理者は、日々の声掛けで気づくことは、その場で注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞くよう努めている。思いをうまく伝えれない時は選択的な質問をして自己決定を促すよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気や利用者の状態、希望に応じてその日の目録をみんなで考える行うようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と健康に配慮し適切な身だしなみに努めている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は調理できる利用者はいないが、下ごしらえや、干し大根、干しナスなど食材作りをスタッフと一緒に楽しんでいる	利用者の重度化に伴い、共に調理することはなくなったが、テーブル拭きや下ごしらえなど、出来るだけ力を出せる場面を作っている。利用者の状態に合わせたミキサー食を自分の力で楽しんで食べるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量は日常的に管理、必要に応じて水分にインアウトを記録管理している。食事やおやつなどで分割して栄養水分補給するよう留意している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて口腔ケアを支援している		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンと能力に応じて適切な排泄介助を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄するよう支援している。夜間もポータブルを置いているが、トイレ誘導するよう努力して自立に向けての支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬剤に頼らない自然な排便を目指している。食物繊維の多い食材の利用や、漢方系のお茶などを利用している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の介護や支援の必要度の少ない場合は入浴時間を話し合っておりかなり自由度の高いものになっている（最近はその担当者がいない）	週に2～3回入浴となっているが、利用者の状況によって夜間や毎日の入浴も可能である。足浴を毎日行い血行をよくして、しもやけ対策をし、入浴の出来ない状態の時は清拭を行い、個々に合わせた支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルし、薬剤の詳細について誰でもすぐ見られ判るようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフは入居者それぞれの生活歴や趣味趣向を家族との話や日々の生活の中から見つけ出し、生活に彩りをあたえる支援をしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者それぞれの思いある場所への小旅行や外出などを入居者の体力を勘案しながら適時行っている（墓参り、花見、喫茶店）	利用者の楽しみ事や習慣に合わせ、買い物、喫茶店、神社や堤防、敷地内の散歩など戸外に出かけている。また、利用者の希望を聞きながら季節ごとに、名所めぐりに車で出かけられるように支援している。	

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>地域のお店の協力を得て、外出時に利用者に小銭を渡し、自分で買い物をし金銭感覚の維持に努めている</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を取り次いだり、葉書を書いて頂き、宛名書きはスタッフがするなど支援をしている</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>田舎の民家風の落ち着いた雰囲気をお大切にしながら、安全で健康な生活環境の維持に努めている</p>	<p>広い民家を利用した共有空間は、明るく、風通しもよく、利用者にとって安心感がある。また、廊下や居間の大きな窓から変わり行く季節の風景を眺めることも出来る。使い慣れたテーブルやイスを利用して居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>建物自体が利用者の慣れ親しんだ伝統的な日本家屋であり、細かく区切られた生活スペースの中で自分の気に入ったスペースを選ぶことができるよう配慮した作りとなっている</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族が慣れ親しんだ物品を持ち込み、気持ちよく過ごせるよう努めている</p>	<p>利用者の身体的状況により持ち込みの少ない居室もある。家族と相談しながらタンス、イス、季節の衣服、家族の写真など使い慣れたものを活かし安心して過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの表示を見やすく表示している</p>		